

使命	目標	指標	参考資料
I 美術を通じた交流を促進する			【集客・交流推進】
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。			〔広報〕
達成目標	年間観覧者数10万人	<ul style="list-style-type: none"> 年間観覧者数(月別推移、年度別推移) 年間来館者数(月別推移、年度別推移) 駐車場利用状況(月別推移、年度別推移) 来館回数(年度別推移) *リピート率 居住地域(年度別推移) *市民率 交通手段(年度別推移) 	
実施目標	広報、パブリシティ活動を通じて、広い層に美術館の魅力をアピールする。	<ul style="list-style-type: none"> 各種メディアへの掲載実績 広報会議の概要(広報戦略) 訴求活動の概要(ポスチラ配布、リリース発送の状況) 	
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。			〔市民協働〕
達成目標	市民ボランティア協働事業への参加者数のべ1000人(事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して)	<ul style="list-style-type: none"> 各事業ごとの開催回数、参加者数の一覧 →サボボラ研修 所蔵品展ギャラリートーク(参加者数、参加ボランティア数) 小学校鑑賞会補助(参加ボランティア数のみ) ワークショップ補助(参加ボランティア数のみ) プロジェクトボランティア会議 プロジェクトボランティアイベント(参加者数、参加ボランティア数) 	
実施目標	ふだん美術館に関心を持たない層を含めた市民が、美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア関連事業の概要 (ボランティアの感想・反応) 	
II 美術に対する理解と親しみを深める			【社会教育】
③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。			〔展覧会・教育普及〕
達成目標	企画展の満足度(補正值)70%	<ul style="list-style-type: none"> 各企画展の満足度 所蔵品展の満足度(年度別推移) 谷内六郎展の満足度(年度別推移) 	
実施目標	幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6本(児童生徒造形作品展含む)の企画展を開催する。 大人の知的好奇心を満たし、美術への理解を深めるための教育普及事業を企画・実施する。 所蔵図書資料を充実させる。 多くの人が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。 主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。	<ul style="list-style-type: none"> 各企画展(児童生徒造形作品展を除く)の概要(ねらい、担当者の感想・反省点) 所蔵品展の概要(同) 谷内六郎展の概要(同) 講演会・アーティストトーク等の実施状況(同) 大人向けワークショップ等の実施状況(同) 図書室の概要(図書新規購入額・点数、寄贈図書の点数) 図書室の利用状況(利用者の月別推移、担当者の感想・反省点) 学芸員による論文、発表等 	
④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。			〔若年層への教育普及〕
達成目標	中学生以下の年間観覧者数15,000人	<ul style="list-style-type: none"> 観覧者数の券種別内訳(月別推移、年度別推移) 子どもを対象とした教育普及事業の参加者数(のべ人数の年度別推移) 	

	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒造形作品展の概要(担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・小学校美術館鑑賞会の概要(実施内容、学校数、児童数、対応職員・ボランティア数、担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・中学生のための美術鑑賞教室の概要(実施内容、担当者の感想・反省点)(生徒の感想) ・子ども向けワークショップ等の実施状況 ・研修等の受入れ状況
⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。 [収集管理]		
	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術品選定評価委員会を1回開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・新収蔵作品リスト
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復を行う。 ・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品収集の状況 ・保管環境の状況 ・所蔵作品の修復状況 ・所蔵作品の貸出状況(件数、点数)
Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する [運営・管理]		
⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。 [メンテナンス・来館者サービス]		
	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内アメニティ満足度80% ・スタッフ対応の満足度80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメニティ関連各項目の満足度(年度別推移) →全般・館内印象・館内環境・休憩所・トイレ・清掃 ・スタッフ対応の満足度(年度別推移)
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・受託事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンスの概要(屋外含む美観、安全性の確保) ・受付・展示監視員研修の状況 ・運営事業者連絡会議の概要(議題等) ・繁忙期の対策(ケータリング誘致など)のまとめ ・レストランアンケート結果 ・レストランコラボメニューの概要
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。 [バリアフリー]		
	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉関連事業への参加者数のべ200人 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業ごとの開催回数、参加人数 →福祉関連講演会 福祉関連ワークショップ 福祉関連パフォーマンス 障害児を対象としたワークショップ 託児サービス
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう(環境づくりの)ための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉関連講演会の概要 ・福祉関連ワークショップの概要 ・福祉関連パフォーマンスの概要 ・障害児を対象としたワークショップの概要 ・託児サービスの概要 ・養護学校等の受け入れ状況 ・鑑賞補助(対話鑑賞)の実施
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する [経営的視点]		
	<p>達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館全体で年間に使用する電力量を前年比△5%とする。 ・管理事業にかかる年間消耗品費執行額を予算の△10%とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電力使用状況一覧 ・決算見込額(消耗品費)
	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員すべてが費用対効果をつねに意識し、効率的な支出を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経費節減の事例・検討課題報告 →開館日・開館時間